

私立大学研究ブランディング事業 2018年度の進捗状況

学校法人番号	081002	学校法人名	日通学園			
大学名	流通経済大学					
事業名	高度なロジスティクス実現に向けての研究拠点形成と人材育成-ロジスティクス・イノベーション・PJ-					
申請タイプ	タイプA	支援期間	2018	年度～	2020	年度
参画組織	流通情報学部、物流情報学研究科、経済学部、スポーツ健康科学部					
事業概要	<p>本学は、「流通経済一般に関する研究と教育を振興する」という建学の精神のもと、体制を整備し、「物流、ロジスティクスは流通経済大学」という評価を既に得ている。これをさらに推し進め、ロジスティクスに関する研究拠点を形成し、人材を育成する。ロジスティクスの重要性を社会に発信し、超スマート社会に欠かせない、ロジスティクス・イノベーションをけん引する「ロジスティクスの未来をつくる大学」のブランドを確立する。</p>					
①事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日本政府が目指す「Society5.0」、すなわち超スマート社会とは、「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられる・・・社会」と定義され、ロジスティクスが目指すところと同じである。しかしながら現在、物流、ロジスティクス分野においては、人手不足に端を発した物流危機に直面し、従来のシステムでは立ちいかなくなっており、抜本的な改革が要請されている。 ・一方、新技術（IoT、AI、ロボットなど）の進展は、ロジスティクスを今後大きく変革していくことが予想され、ロジスティクスは大きな転換期を迎えている。 ・国土交通省による「総合物流施策大綱（2017～2020年度）」においては、「①今後の社会構造の変化やニーズの変化に的確に対応するとともに、②人材や設備等の資源を最大限活用してムダのない構造を構築し、③第4次産業革命への対応も含め「高い付加価値を生み出す物流」へと変革することが必要である。」としている。高度なロジスティクスを実現するためには、ロジスティクス・イノベーションが欠かせず、その実現を支える研究拠点の形成と高度なロジスティクス人材の育成が欠かせない。 ・本学は、「流通経済一般に関する研究と教育を振興する」という建学の精神のもとに発展してきた。さらに、日本で唯一といえるロジスティクスを柱とした学部を持ち、これまで、物流、ロジスティクス研究の発展、日本の物流政策の発展、物流人材の育成の中核として寄与し、「物流、ロジスティクスは流通経済大学」という一定の評価を得てきた。本事業では、これをさらに推し進め、高度なロジスティクスの基盤となる、研究拠点の形成、高度な人材の育成を図っていく。経済、産業、生活に欠かせないロジスティクスの重要性を広く社会に発信し、位置づけを高めると同時に、超スマート社会に欠かせない、ロジスティクス・イノベーションを、企業、業界団体、政府等とともに、けん引し、「ロジスティクスの未来をつくる大学」として、ブランドを確立する。 					
②2018年度の実施目標及び実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.研究拠点における目標 研究拠点の立ち上げと検討の方向性、各テーマにおける課題の整理 2.人材育成における目標 新しい産学連携科目の取り組みと小中高校生等向けのロジスティクス教育の現状と課題に関する整理 3.ブランディング戦略の目標 ブランディング戦略の体制づくりと本事業の認知度向上 					
③2018年度の事業成果	<ol style="list-style-type: none"> 1.研究拠点における事業成果 <ul style="list-style-type: none"> ①社会システムとロジスティクスの研究拠点関連 <ul style="list-style-type: none"> ・第4次産業革命、「Society 5.0」などの考え方とロジスティクスの関係、近年の新技術（IoT、AI、ロボットなど）の進展状況を踏まえた、ロジスティクスにもたらす影響に関しての現状の議論の状況整理と今後の検討方向についての整理を行った。特に、物流現場での輸送、荷役に関する新技術の動向とその影響について検討した。さらに、情報の電子化、情報共有の進展により、サプライチェーン全体での全体最適化、さらにシェアリングなどの可能性について検討した。 ・スポーツ分野のロジスティクスの現状の把握と研究活動の社会展開、研究普及につなげるべく、「スポーツとロジスティクス」をテーマに2019年2月1日にシンポジウムを開催し257名の参加を得た。特に東京2020に向けて、大会物流、一般物流で留意すべき課題について、整理、検討した。 					

<p>③2018年度の事業成果</p>	<p>②地域とロジスティクスの研究拠点関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とロジスティクスについては、物流が地域活性化にどのように関わるか、地域住民の生活を支えるためにどのように貢献していくことが可能かについて検討した。特に、物流業における新しい地域貢献の方向性であるCSV(Creating Shared Value)の進展状況、地方公共団体と企業における、物流振興、魅力発信、観光振興・観光情報の発信、地域製品の流通・販売支援、地域防災、安全・安心な地域づくり、子供・青少年育成、女性活動推進・ダイバーシティの推進、高齢者・障がい者支援、環境保全推進などの包括連携協定の締結状況を整理し、今後の展開方向性を検討した。 <p>2.人材育成における事業成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな産学連携科目の取り組みとして、IoT、AI、ロボットなどの進展という視点からの「IoTロジスティクス実践講座」、地域におけるロジスティクスの重要性に対応した「地域ロジスティクス実践講座」を新規開講した。また、「ロジスティクス実践講座」、「物流マネジメント実践講座」、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」、「ダイレクトマーケティング実践講座」、「ロジスティクス企業訪問講座」、「ロジスティクス改善演習」を継続開講した。各講座は物流関連団体や荷主企業、物流事業者などから実務者や経営者ら総勢88名を講師に招いて実施し、2018年度は春・秋学期あわせて延べ469名が受講した。受講者には自由意見を含むアンケート調査を行い、その結果も踏まえて次年度の講座計画の策定までを行った。 ・人材育成産学連携コンソーシアムを2019年3月15日に開催し、高度なロジスティクス人材の育成に向けたプログラムのさらなる充実とIoT・AI・ロボット等を実体験するプログラムの実施、留学生対象のプログラム開発、小中高校生向けのテキストや視聴覚教材の開発を産官学で連携して進めることを決定した。 <p>3.ブランディング戦略の事業成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究ブランディング事業を紹介するリーフレット(フライヤー)の配布やキャンパス正面への懸垂幕掲示などにより事業の認知度アップに努めた。 ・本研究ブランディング事業の専用ホームページ「Logistics Innovation」を開設し、本事業の事業内容等の情報発信を開始した。 ・研究報告書「物流問題研究」を冊子体で発行し、またWebでも公開した。特集は物流業界の人手不足をテーマとした。
<p>④2018年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究拠点における事業については、2018年度は学内での検討を中心に実施した。ロジスティクスに大きな変革をもたらすことが予想される新技術(IoT、AI、ロボットなど)については、その進展状況の整理と同時に、ロジスティクス現場、サプライチェーンに与える影響を中心に検討できた。地域とロジスティクスについては、物流業における新しい地域貢献の方向性であるCSV(Creating Shared Value)の進展状況、地方公共団体と企業における包括連携協定の締結状況を整理し、今後の展開の方向性について検討を進められた。産学連携等による研究会による検討は2019年度以降の課題とする。 ・高度なロジスティクス人材の育成においては、従来から実施している産学連携プログラムを引き続き実施し、加えて時代の要請に応える新たな産学連携科目を開講し評価を得た。さらに外部、学生による評価を実施し内容の改善に努めることができた。 ・ブランディング戦略の実施状況については、本事業紹介のリーフレット(フライヤー)作成と情報発信のためのブランディング専用ホームページを開設したが、まだ認知度向上には至っていない。内容の充実とさらなる広報等が必要となっている。シンポジウム開催によるプロモーションについては、2月に「スポーツとロジスティクス」を開催した。多くの参加者が集まると同時に、マスコミ等でも紹介され、一定の成果が得られた。 <p>(外部評価)</p> <p>【2018年6月21日に第1回外部評価委員会を開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究ブランディング事業は、産官学が連携して物流・ロジスティクス分野について考究し、転換期を迎える業界に高度な専門人材を輩出する取り組みとして高く評価できる。 ・業界の課題解決にもつながる研究としては、国際物流の潮流や国内物流の地域間格差を踏まえた研究テーマや内容にも期待したい。 ・人材育成に係る小中高校生へのロジスティクス教育については、教育ツールの開発とあわせて学校教員の理解と協力を得ることが重要であり、これを踏まえた具体策が必要である。啓発・普及活動に積極的な業界団体との連携にも期待したい。 <p>※次回の外部評価委員会は2019年7月11日開催予定。</p>
<p>⑤2018年度の補助金の使用状況</p>	<p>2018年度補助金は、都度学内の承認(決裁)を受け、計画に基づき適正に執行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム、WG研究会、シンポジウム開催、外部評価委員会の開催に係る支出 ・調査研究に係る支出 ・研究報告書の作成及び発送に係る支出 ・専用ホームページの制作に係る支出 ・ロジスティクス・イノベーション推進センター研究員の人件費に係る支出